

# 令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 静岡県・磐田市 】

学校名【 磐田市立大藤小学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	4年生 46名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 総合的な学習の時間 )</p> <p>② 行事名 ( )</p> <p>③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	スポーツの視点からインクルーシブ社会への理解や参画について興味をもつことを通して、総合的な学習のテーマ「共に生きる」について理解を深める。
5 取組内容	<p>本校の4年生は、1学期から「共に生きる」をテーマに総合的な学習の時間に取り組んできた。1学期には視覚障がいをもった方や元盲導犬ユーザーの方のお話をうかがった。児童は、これまで学んできたことをもとに、今回の活動に取り組んだ。</p> <p>授業の前半一時間は、視覚障がいをもったFC コレチーボ静岡のキャプテンの渡邊さんの経験をもとにした講話や、児童との質疑応答が中心だった。児童がこれまでの学習を振り返り、学んだことを生かせるような主体的に取り組める内容だった。その中でブラインドサッカーの動画を紹介していただき、競技の特性やルールについての説明があった。</p>
	

後半は、用意してくださったブラインドサッカーのボールとアイマスクを使って、実際に目が見えない状態でボールを蹴ったり、指示役になって目が見えない相手に伝わるように指示を出す体験をしたりした。目が見えないということを感じるとともに、指示をする補助者の体験ができ、貴重な機会となった。



<p>6 主な成果</p>	<p>○児童の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障がいと言っても、視野角や色の見えづらさ、ぼやけ具合等、いろいろな種類があることが分かった。</li> <li>・視覚障がいの方は点字を使って生活していると思っていたが、点字が書けなかったり、読めなかったりする方も多いいことを知った。</li> <li>・ブラインドサッカーの体験を通して、選手たちのすごさが分かった。パラリンピックでもまた見たい。</li> <li>・目が不自由でもできることはたくさんあり、楽しめることも多いことが分かった。</li> </ul> <p>↓</p> <p>○障がいへの理解、パラスポーツへの興味が高まった講演会・体験会となった。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年をかけて福祉の学習をする4年生にとって、本講演からパラリンピックを通じたインクルーシブ社会への理解が深まる機会となった。</li> </ul>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市スポーツ振興課を通し、来年度以降も福祉、パラリンピック教育の継続。</li> </ul>